

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成25年7月12日

【四半期会計期間】 第48期第1四半期(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

【会社名】 エスフーズ株式会社

【英訳名】 S Foods Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 村上真之助

【本店の所在の場所】 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13

【電話番号】 (0798)43局1065番

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長
安岡信幸

【最寄りの連絡場所】 兵庫県西宮市鳴尾浜1丁目22番13

【電話番号】 (0798)43局1065番

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長
安岡信幸

【縦覧に供する場所】 エスフーズ株式会社東京支店
(千葉県船橋市浜町3丁目2番3)

株式会社大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜1丁目8番16号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第47期 第1四半期 連結累計期間	第48期 第1四半期 連結累計期間	第47期
会計期間	自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日	自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日	自 平成24年3月1日 至 平成25年2月28日
売上高 (百万円)	35,411	40,278	148,097
経常利益 (百万円)	1,567	1,451	5,593
四半期(当期)純利益 (百万円)	691	687	2,507
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	720	991	4,146
純資産額 (百万円)	37,544	41,221	40,631
総資産額 (百万円)	68,380	78,830	72,224
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	24.69	24.56	89.53
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	49.1	46.8	50.3

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間における日本経済は、新政権の経済政策への期待感から株価の上昇と円安の進行があり、企業業績の好転が報じられました。しかしながら、株価が急落し円安が一服する場面もあり、デフレ経済からの脱却を確信できる段階には至っていません。

当食肉業界においては、輸入食肉で米国産牛肉の輸入条件緩和による量的回復が見られるものの、円安による原価上昇が収益性低下を招き、国産牛肉も市場価格が上昇しております。一方、消費者マインドは、高級消費財の一部で購入が増加する変化がありますが、一般消費財には顕著な変化は見られません。このような状況のなか、当社グループは、経営問題に対し、食肉の生産から小売・外食に至る一貫流通というグループ機能を推進し、販売の拡大と利益確保に努めました。

食肉等の製造・卸売事業においては、米国産原料使用の製品の復活をテーマに、「こてっちゃん」の販促キャンペーンを行いました。また、販路拡充を目指してコンビニエンスストア向け製品の提案を強化しました。更に、平成26年中頃に完成予定の豚肉加工センターの稼働に備えた豚肉の拡販や、外食産業や量販店など有力得意先への商品提案を進めました。

食肉等の小売事業においては、新規ディベロッパーとの取組による出店や既存店活性化活動の継続、提案型販売の強化等を進めました。

食肉等の外食事業においては、ステーキレストランチェーンの競争力向上のための施策を実施しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高402億7千8百万円（前年同四半期比13.7%増）、営業利益12億8千万円（前年同四半期比12.8%減）、経常利益14億5千1百万円（前年同四半期比7.4%減）、四半期純利益6億8千7百万円（前年同四半期比0.5%減）となりました。

続いて、セグメントごとの業績は次のとおりであります。なお、売上高は外部顧客への売上高を記載し、セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

食肉等の製造・卸売事業

売上高は330億3千3百万円（前年同四半期比17.6%増）、セグメント利益は11億5千万円（前年同四半期比15.3%減）となりました。

食肉等の小売事業

売上高は49億7千3百万円（前年同四半期比2.8%減）、セグメント利益は2億9千万円（前年同四半期比10.0%減）となりました。

食肉等の外食事業

売上高は18億8千1百万円（前年同四半期比7.6%増）、セグメント利益は1億2千8百万円（前年同四半期比131.7%増）となりました。

その他

売上高は3億8千9百万円（前年同四半期比16.0%減）、セグメント利益は4百万円（前年同四半期比82.9%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて66億6百万円増加し、788億3千万円となりました。これは主に、季節要因による売上債権の増加及びたな卸資産の増加等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて60億1千6百万円増加し、376億9百万円となりました。これは主に、季節要因による仕入債務の増加及び借入債務の増加等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて5億9千万円増加し、412億2千1百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の当社グループが支出した研究開発費の総額は2千万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年7月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,267,721	32,267,721	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 500株
計	32,267,721	32,267,721	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年5月31日	-	32,267,721	-	4,298	-	11,881

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 4,262,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式 27,845,500	55,691	-
単元未満株式	普通株式 160,221	-	-
発行済株式総数	32,267,721	-	-
総株主の議決権	-	55,691	-

（注）「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が220株含まれております。

【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
（自己保有株式） エスフーズ株式会社	兵庫県西宮市鳴尾浜 1丁目22番13	4,262,000	-	4,262,000	13.21
計		4,262,000	-	4,262,000	13.21

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,889	17,195
受取手形及び売掛金	13,727	16,852
商品及び製品	6,369	7,995
仕掛品	2,609	2,815
原材料及び貯蔵品	909	1,234
その他	1,611	1,879
貸倒引当金	127	131
流動資産合計	42,991	47,843
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,467	19,848
減価償却累計額	11,612	11,722
建物及び構築物（純額）	6,854	8,125
土地	9,172	9,947
その他	13,747	13,607
減価償却累計額	9,826	9,902
その他（純額）	3,920	3,704
減損損失累計額	611	597
有形固定資産合計	19,336	21,180
無形固定資産		
のれん	42	39
その他	217	210
無形固定資産合計	259	250
投資その他の資産		
投資有価証券	6,362	6,389
その他	3,512	3,400
貸倒引当金	238	232
投資その他の資産合計	9,636	9,556
固定資産合計	29,232	30,987
資産合計	72,224	78,830

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,552	12,953
短期借入金	4,007	5,052
未払法人税等	1,416	620
賞与引当金	609	805
その他	4,398	4,929
流動負債合計	19,984	24,360
固定負債		
社債	270	250
長期借入金	7,999	9,780
退職給付引当金	782	782
役員退職慰労引当金	159	142
その他	2,396	2,292
固定負債合計	11,607	13,249
負債合計	31,592	37,609
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,298	4,298
資本剰余金	11,952	11,952
利益剰余金	21,956	22,308
自己株式	2,987	2,988
株主資本合計	35,220	35,571
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,324	1,329
繰延ヘッジ損益	38	58
為替換算調整勘定	258	90
その他の包括利益累計額合計	1,104	1,298
少数株主持分	4,307	4,352
純資産合計	40,631	41,221
負債純資産合計	72,224	78,830

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
売上高	35,411	40,278
売上原価	29,071	34,094
売上総利益	6,340	6,183
販売費及び一般管理費	4,872	4,902
営業利益	1,468	1,280
営業外収益		
受取利息	5	6
受取家賃	29	41
受取配当金	3	10
負ののれん償却額	14	14
協賛金収入	29	22
その他	78	136
営業外収益合計	159	232
営業外費用		
支払利息	33	35
持分法による投資損失	-	1
賃貸原価	13	17
その他	13	7
営業外費用合計	60	61
経常利益	1,567	1,451
特別利益		
固定資産売却益	1	0
受取補償金	9	-
その他	0	-
特別利益合計	10	0
特別損失		
固定資産処分損	8	3
店舗閉鎖損失	0	18
ゴルフ会員権評価損	-	5
賃貸借契約解約損	-	10
特別損失合計	8	37
税金等調整前四半期純利益	1,570	1,415
法人税等	773	625
少数株主損益調整前四半期純利益	796	790
少数株主利益	105	102
四半期純利益	691	687

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	796	790
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	202	7
繰延ヘッジ損益	4	20
為替換算調整勘定	128	171
持分法適用会社に対する持分相当額	2	1
その他の包括利益合計	76	201
四半期包括利益	720	991
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	602	882
少数株主に係る四半期包括利益	117	109

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)
税金費用の計算	当社及び一部の連結子会社については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

連結子会社 株式会社北海道中央牧場は、肥育業務委託先である下記3社(者)の金融機関からの借入に対し債務保証(連帯保証)を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
株式会社カーサ	290百万円	株式会社カーサ 285百万円
有限会社すぎもとファーム	93百万円	有限会社すぎもとファーム 91百万円
金丸 一男	210百万円	金丸 一男 210百万円
計	593百万円	計 586百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年5月31日)
減価償却費	387百万円	392百万円
のれん償却額	91百万円	2百万円
負ののれん償却額	14百万円	14百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月22日 定時株主総会	普通株式	336	12	平成24年2月29日	平成24年5月23日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月23日 定時株主総会	普通株式	336	12	平成25年2月28日	平成25年5月24日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	食肉等の製造 ・卸売事業	食肉等の小 売事業	食肉等の外 食事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	28,083	5,116	1,748	34,948	463	35,411	-	35,411
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,562	14	26	1,604	10	1,614	1,614	-
計	29,646	5,131	1,775	36,552	473	37,026	1,614	35,411
セグメント利益	1,358	322	55	1,736	26	1,762	294	1,468

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲料水製造・販売事業及び不動産事業等
 であります。

2. セグメント利益の調整額 294百万円には、セグメント間取引消去 48百万円、各報告セグメントに配分していない全
 社費用 245百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社及び一部子会社の間
 接部門の一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	食肉等の製造 ・卸売事業	食肉等の小 売事業	食肉等の外 食事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	33,033	4,973	1,881	39,888	389	40,278	-	40,278
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,638	30	39	1,708	35	1,744	1,744	-
計	34,671	5,003	1,921	41,597	425	42,022	1,744	40,278
セグメント利益	1,150	290	128	1,568	4	1,573	292	1,280

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飲料水製造・販売事業及び不動産事業等
 であります。

2. セグメント利益の調整額 292百万円には、セグメント間取引消去 18百万円、各報告セグメントに配分していない全
 社費用 274百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社及び一部子会社の間
 接部門の一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	24.69円	24.56円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	691	687
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	691	687
普通株式の期中平均株式数(株)	28,007,292	28,005,339

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年7月11日

エスフーズ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松井隆雄 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林礼治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエスフーズ株式会社の平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エスフーズ株式会社及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。